

平成17年9月6日大水害

あれから10年

教訓は生かせるか：

>8<

杉尾 哲氏 基調講演
平成17年台風14号大水害の教訓



思つて観念したら、意外と水位がすうっと下がつていったんです。

この経験から私たちには大淀川、五ヶ瀬川水系について「水害に強い地域づくり」として、改善すべき課題を文書にまとめ、翌年の8月、国と県に提言書を提出させていただきました。

台風14号のときは県内に20人しかいなかつたのですが、現在は2400人と120倍まで増え、非常に心強くなりました。

それから、国土省は河川監視カメラを持つていて、今はインターネット上で非常にたくさん見られるようになつていますし、防災

るような水害でした。

宮崎市の避難所はどこも超満員でした。

くでは自衛隊が土のうを積み上げました。そ

のくらい緊迫した状態だつたわけです。



田畠や住宅街が川のようになつた延岡市桜ヶ丘（平成17年9月6日午前9時ごろ）

育成に努めました。防災士は、社会のいろいろなところで防災・減災に活躍してくれる資格を持った方々です。

大淀川は5日の夕方に避難勧告、6日の夜に2時15分に避難指示が出ました。当時は、夜中に避難指示を出すというのはものすごくめらいがあったんですね。

私は家において、いろいろな河川の情報を集め、県庁のある宮崎市の中心部は壊滅的な被害が起こるだろうなど

と思ひます。朝まで待つていたら、とてもじゃないが避難できるような状況にありませんでしたし、お昼までずっと、水位がものすごく上がりました。

一緒に下がつてくれました。もしも満潮の時期がお昼、あるいはお昼すぎになつていたら、県都はやられてしまつていてんじやないかな

と、今考えても怖くなつた。もともと、台風14号を忘れないよう9月6日を提案したんですけど、残念ながら9月1

大淀川6日夜中に避難指示

足元が暗い時に避難ができるかというような、いろいろな考えがあつたのですが、私は夜中に出して正解だった

防災・減災を考える
シンポジウムから